

2020年2月

「社会科学の発展を考える円卓会議」第2期の開始にあたり

国立大学法人一橋大学長
蓼沼宏一

昨今の高等教育予算の逼迫が日本の自然科学・生命科学分野に及ぼす影響については頻りに警鐘が鳴らされております。しかしながら、日本における社会科学については、実態として危機的な状況が長く続いてきているにもかかわらず、主要な政策課題として認識される傾向が弱い状況に置かれたままになっております。

しかし、超高齢社会の到来による深刻な社会課題、日本におけるイノベーションの停滞、AI・ロボットなど急速な科学技術の発展に伴って生じる法・社会・経済問題等、日本や世界が直面している諸問題は、社会科学の研究とそれに基づく人材育成の強化がなければ解決できるものではありません。これらの諸問題の深刻さを考えるならば、日本の社会科学の研究・教育に抜本的なテコ入れを行い、次の時代に世界の社会科学の発展をリードできる体制を作ることは、我が国にとって喫緊の課題であります。

このような問題意識から、社会科学の研究大学として長い歴史と伝統をもつ一橋大学がイニシアティブをとり、産官学のすべての英知を結集して日本の社会科学を発展させるための方策を構想していく場として、2018年4月、「社会科学の発展を考える円卓会議」を設置しました。これまで大変、有益なご議論をいただきまいましたので、本会議は継続することとし、下記のとおり、2020年4月より第2期目を開始することといたします。

記

1. 会議名称

「社会科学の発展を考える円卓会議」（以下、「円卓会議」と言う）

2. 円卓会議における議論のテーマ

円卓会議における議論の主テーマは「社会から求められる社会科学の研究とそれに基づく人材育成」とします。具体的なテーマの例は、以下のとおりです。

(1) 社会課題解決のための社会科学（超高齢社会における医療・社会保障、グロー

バル・ガバナンス等の諸問題に対して社会科学の視点から解決策を考える)

- (2) 経済の活性化に資する社会科学(イノベーション促進やベンチャー育成のために社会科学は何を貢献できるか)
- (3) 政策立案に貢献する社会科学(エビデンスに基づく政策立案及びそれを担う人材育成を推進する)
- (4) 文理共創(デジタル革新による新たな社会科学の創出、科学技術の社会実装、地球環境保全などの課題解決に向けた文理共創を推進する)
- (5) 社会科学系大学の経営における戦略と組織(社会科学系大学独自の財政基盤強化のためにどのような戦略と体制が必要か)

まず一橋大学の課題をご提示し、一橋大学を一つの具体例として社会科学の研究・教育の活性化についてご議論いただきたいと考えております。一橋大学の抱えている課題は、日本の社会科学が直面している課題の典型でありますので、その具体的な課題の検討から始めることで、ひいては日本の社会科学全般の発展に向けた提言ができることになると思量しております。

3. 円卓会議の構成

産官学の各界をリードする有識者の方々にお集まりいただきたいと考えております。

4. 円卓会議の開催について

円卓会議を年に1-2回程度開催する予定です(1回につき2時間程度を予定)。

5. 円卓会議開催場所

- ・一橋講堂 (東京都千代田区一ツ橋2-1-2)
- ・如水会館 (東京都千代田区一ツ橋2-1-1) 他

6. 任期

2020年4月より2年間(ただし、再任を妨げない)